せとうち DMO NEWS

地域や事業者の皆さまにせとうちDMOについて理解を深めていただけるよう活動状況や観光関連情報を毎月お届けしていきます。

“Japan's Inland Sea, SETOUCHI”
世界に評された瀬戸内

一般社団法人
せとうち観光推進機構

株式会社
瀬戸内ブランドコーポレーション

ABOUT US

「多島美」と呼ばれるキラキラと輝く海と大小700以上の島々、そしてそこに暮らす人々とともに息づき豊かな恵みをもたらす里山が織りなす景色、せとうち。わたしたちせとうちDMOはその恵まれた資源を「せとうちブランド」として確立し、地域経済活性化や豊かな地域社会の実現を目指し活動しています。
その実現のため、せとうちエリアの自治体・観光関連事業者をはじめとする地域の皆さまと共に連携し、地域一丸となってせとうち広域での観光振興に取り組んでまいります。

せとうちDMO

発行日：2026年8月31日
発　行：せとうちDMO
編　集：弓削・遠藤・冨田
住　所：広島市中区基町10番3号

せとうちDMO
https://setouchitourism.or.jp/ja/

SETOUCHI REFLECTION TRIP
https://www.setouchi.travel/en/

瀬戸内Finder
https://www.setouchi.travel/jp/

※文章・画像等の無断転用はお断りします。

中国・四国・関西エリアDMO観光地域づくりシンポジウムで講演しました

2026年7月31日（金）、公益社団法人日本観光振興協会が主催する「中国・四国・関西エリアDMO観光地域づくりシンポジウム」が開催され、当機構の事業本部長・坂元が講師として登壇しました。

この講演会は、同エリアで活用するDMO等のフラットな交流と人脈づくりを目的に企画されたもので、坂元からは「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり（モデル観光地づくり事業）」と「先駆的DMO事業」の2テーマで、それぞれの取組状況や課題、今後の方向性について紹介しました。

その後のワークショップでは「データ活用の方向性について、高額なシステムを導入して満足するのではなく、地域をどう変えたいかという目標をまず設定し、それに適したデータ・アプローチを選択して関係者と合意形成を行うことが重要。」などの意見がありました。

せとうちエリアが目指す観光地域づくりの考え方や実例を広く発信し、地域や関係機関との連携をさらに深めて参ります。

▲当日の様子

Greater WEST JAPAN連携会議が開催されました

2026年8月21日（金）、Greater WEST JAPAN連携会議が開催されました。

この会議は、歴史的・文化的につながりの深い関西及び中国、四国エリアにある関西観光本部、山陰インバウンド機構、四国ツーリズム創造機構、せとうち観光推進機構の4DMOが、西日本の魅力ある豊富な観光資源を活用した観光ルートの形成、テーマツーリズムの創出を図ることを目的としています。

会議では、昨年度に続き、2027年1月にオーストラリアで開催予定の「Japan Roadshow 2027」へ出展することなどが協議されました。4DMOが連携し、地域間の周遊促進やさらなるインバウンド誘客につなげていきます。

▲Japan Roadshow 2026の様子

山陰道等早期整備総決起大会で講演しました

2026年8月25日（火）、「山陰道等早期整備総決起大会」が開催され、当機構の事業本部長・坂元が講師として登壇しました。

講演では、「せとうちDMOが描く次の5年『せとうち観光成長戦略2026-2030』」をテーマに、せとうちエリアの観光を取り巻く環境や今後の成長に向けた方向性について紹介しました。せとうちと山陰の双方で、地域の魅力をさらに高め、交流人口の拡大につなげていくためのキックオフとなりました。

観光のプロの目線から、市町のコンテンツを選定しました（上期）

2023年から観光庁の支援を受けて実施しているモデル観光地づくり事業では、外国人有識者の目線から、欧米豪の旅行者に訴求力のあるコンテンツを発掘し、さらに、より高い満足感を味わってもらうためのエ夫や受入体制を磨くアドバイスを行っています。連携する48市町のうち、38市町で合計49のコンテンツを選定しており、今年度は、未着手の10市町で取組を進めています。

外国人有識者の株式会社Jizohat代表・ポール・ウォルシュ氏が7月に実施した4市町のコンテンツの視察結果についてお届けします。（下期は、9～11月に6市町の調査を予定しています。）

井原市
〈岡本テキスタイル・デニム工場見学〉

周防大島町
〈龍神乃鹽・塩づくり（煮立たせ中）〉

直島町
〈地中美術館・館内見学〉

岡山県（井原市）

テーマ：デニム産業・職人技のストーリーテリング強化

（訪問先）：華鴒大塚美術館別館 緑樹園、岡本テキスタイル、BlueTrick
（視察内容や評価のポイント）：美術館別館において、デニム産業の歴史を英語で解説し、和菓子・抹茶を交えた文化理解の場を提供しています。社長自ら織機の歴史や供給逼迫などを、説明することで深い学びが得られます。ビーガン対応の食事や端材を活用したワークショップなど体験性も高く世界のトップブランドが評価する職人技を、物語性を伴って旅行者に伝えることで、高付加価値化の余地が大きいです。

山口県（周防大島町）

テーマ：歴史建築 × 食文化 × 島のホスピタリティ

（訪問先）：豊武屋敷、ニホンアワサンゴ、龍神の鹽
（視察内容や評価のポイント）：「豊武屋敷」は明治期建築の宿で、古文書や家具の展示、英語ガイド、寿司体験、和文化体験が可能です。奈良時代以前の製塩を復活した「龍神乃鹽」は体験性・品質ともに高評価です。アクティビティ要素の強い自然・食・文化が融合し、瀬戸内の魅力的なレクリエーション拠点として高いポテンシャルを有しています。

山口県（岩国市）

テーマ：館長ガイドによる美術館巡り

（訪問先）：柏原美術館、半月庵
（視察内容や評価のポイント）：柏原美術館は通常見学でも満足度が高いですが、館長による案内により飛躍的に理解が深まります。岩国寿司の老舗「半月庵」と組み合わせることで高付加価値化が可能です。武士の軍事史に関心のある旅行者に特に響く内容であり、初学者にも優れた入門となる情熱的なガイドが強みとなっています。

香川県（直島町）

テーマ：世界的評価のアート体験 × コミュニティの視点

（訪問先）家プロジェクト、直島・新美術館、地中美術館、李禹煥美術館
（視察内容や評価のポイント）：家プロジェクトやタレル作品、地中美術館など、世界的評価を受けるアート群を有します。自然光や建築との調和により、時間や季節によって体験が変化する点が特徴です。ガイドは作品解説にとどまらず、島の歴史・コミュニティ・観光との関係性まで踏み込んだ説明を行い、アート鑑賞を超えて地域の価値を深く理解できる高付加価値な体験となっています。

全体まとめ

産業・歴史・文化・自然・食を「体験」と「ストーリーテリング」で結びつけることで、せとうちの各地域は高付加価値旅行者に強く訴求できます。
特に、職人技の背景説明／歴史建築の物語／地域コミュニティの視点／専門ガイドの深い解説が価値向上の鍵です。ビーガン対応や英語ガイドなど、訪日旅行者への受入れ体制も整いつつあり、さらなる磨き上げが可能です。

※文章・画像等の無断転用はお断りします

観光コンテンツの付加価値向上に向けたセミナーを開催しました

先にご紹介したモデル観光地づくり事業として、せとうちエリア全域の事業者に向けて、欧米豪からの高付加価値な観光客を呼び込むために押さえるべきポイントやブラッシュアップのコツなど、普遍的なノウハウの共有を目的としたセミナーを開催しました。講師のジュリ ボゥ様には、コンテンツの視察にも同行いただいており、せとうちの実態に即したアドバイスを多くいただきました。

＜セミナー開催概要＞

セミナー名	リアルな声を届ける！ 高付加価値化に向けたブラッシュアップセミナー
開催日時	2026年8月24日（月）14:00～15:15
講師 セミナー内容	○基調講演：ジュリ ボゥ 氏 ～観光を、少し違う視点から考える （URIBO WORKS代表：モノづくりを中心としたアドバイザー及びガイドとして活動） ○基調講演 ：松村 健志 氏 ～なぜインバウンドに取り組むのか （株式会社めじ 代表取締役：地元の伝統製法と絶品寿司を味わう「赤酢ツアー＋ダイニング」が高付加価値コンテンツとして令和7年度に選定）
参加者	61名

「瀬戸内Finder」のご紹介！
SNSとWEBで旬のせとうち情報をお届けします！

みなさんは「瀬戸内Finder」をご存じですか。写真家やライターが、主に国内の旅行者に向けて、せとうちの旬な情報をWEBサイトとSNS（FacebookとInstagram）で発信するオウンドメディアの名称です。

WEBサイト　https://www.setouchi.travel/jp/trip-ideas/
Facebook　https://www.facebook.com/SetouchiFinder/
Instagram　https://www.instagram.com/setouchifinder/

記事として取り上げる内容は、「体験」、「アート・文化」、「歴史」、「海・自然」、「グルメ・おみやげ」、「宿・ホテル」の6カテゴリーがあり、8月の取材テーマは、「広島」×「海・自然」です。

穏やかな瀬戸内海ならではの海面をチューブ製のボートでダイナミックに走行体験できるリブボートツアー「SUIGUN RIB TOURS」、昔ながらの活版印刷技術を体験してオリジナルの本も製作できる「活版カムパネルラ」を広島県尾道市で取材しました。掲載は9月中旬の予定ですので、ぜひ楽しみにお待ちください！

また今年度から始めた新しい取り組みとして、当機構に出向している7県の職員自らが、インスタグラムのショート動画でナレーションに挑戦しています！ぎこちなさも残りますが、精いっぱい郷土の魅力をアピールしていますので、ぜひご視聴＆フォロー、よろしくお願いいたします。

WEBサイト　Facebook　Instagram

▲取材の様子

阿波弁でナレーションしてます！
ぜひご覧ください！

せとうち周遊クルーズ「ガイド研修会」を開催しました

せとうちDMOでは、モデル観光地づくり事業の一環で、瀬戸内海を「移動する海」から「体験する旅」へと転換すべく、せとうち観光周遊船「シースピカ」や小型チャーター船を活用した「せとうち周遊クルーズ」の新たなプレミアムコンテンツ造成を進めています。

今後のクルーズ観光において重要となる、船上での質の高いストーリーテリングを提供できるガイドの育成を目指し、下記のとおり研修会を開催しました。

開催概要

1 主 催 せとうちDMO
2 日 時 令和8年7月16日（木）13:30～15:30
3 場 所 オンライン開催　※参加無料
4 定 員 100名　（申込：110名、当日参加：42名、残りはアーカイブ視聴）
5 内 容 せとうち周遊クルーズ コンテンツ造成に伴うガイド研修
（1）開会挨拶・本研修の趣旨について
（2）せとうち周遊クルーズが目指す体験価値と世界観
㈱瀬戸内ブランドコーポレーション　エリアプロデュース事業本部長　吉原亜矢子
（3）瀬戸内海の文化や島旅について
～せとうち東部における小型チャーター船の観点から～
㈱SETOUCHISEAWIND　代表取締役　小西智都子 氏
（4）観光船シースピカと新ルート（広島～宮島～下瀬美術館）におけるエリアの魅力
瀬戸内海船汽船㈱　航路事業部　下田健一　氏
（5）瀬戸内海の風景と調和する、アートと建築の魅力
下瀬美術館　香川紀香　氏
（6）質疑応答・今後の予定について

アンケート結果抜粋

【回答者概要】
回答者　：39名（参加申込者110名）
所　属　：(一社)ひろしま通訳・ガイド協会所属のガイドの他、島根県通訳案内士会、愛媛SGGクラブ松山支部、九州通訳・翻訳者・ガイド協会、ふじのくに静岡通訳案内士の会やツアー会社所属のガイドなど
対応言語：英語37名、スペイン語2名、中国語2名、日本語7名、ポルトガル語2名、台湾語1名

Q. 今後、海や島・クルーズに関するガイド研修でとりあげてほしいテーマは何ですか？

瀬戸内・各島の歴史・文化・ストーリー
●海賊の歴史や文化（村上水軍など）
●観光地の詳しい解説、特に島々の「いわれ」や名称の由来
●せとうちの島々ならではの生活慣習、伝説などのストーリー
●それぞれの島ごとの歴史や文化、見どころ
（本島、高見島、仁尾町、下蒲刈島など）
●本島以外の島々の歴史、魅力点
●訪問の多い島を重点的に学ぶ歴史研修

クルーズ・船上ガイドのノウハウ&スキル
●バスツアーと異なり、景色が大きく変わらない船上から「何をどうガイディングすれば良いか」の具体策
●クルーズならではのガイドスキルの獲得
●実際にルート上から見える景色の紹介方法
●実際に稼働しているクルーズ船やフェリーの実際のルートの試乗・見学会

広域連携・情報収集
●効率的な情報入手ルートや集め
●山口県と愛媛県をつなぐ観光ルート・広域連携の可能性

島々の受け入れ体制・インフラ・地域課題
●各島のインバウンド受け入れ許容範囲、体制
●島での食事・飲食施設のキャパシティ
●瀬戸内海の各島々が持つ魅力と、裏にある問題解決への取り組み

実地研修・フィールドワークの機会
●島の実地研修（江田島、大久野島、蒲刈島など）
●まだ広く知られていない魅力的な島々の開拓・研修
●乗船体験研修
●しまなみ海道のサイクリングガイド研修
●直島周辺のアートエリアに関する研修
●体験型アクティビティの案内手法

ガイドニーズ・インバウンド・満足度向上
●具体的にどのようなガイドニーズがあるのか
●外国人観光客（インバウンド）の興味、反応、不満点
●天候悪化等で予定通りの旅程を進められない場合の代替案内・対応ノウハウ

※文章・画像等の無断転用はお断りします。

井原ブランドツーリズム事業報告会及びワークショップを実施しました

瀬戸内ブランドコーポレーションは、岡山県井原市で設立された（一社）井原ブランドツーリズムより「井原ブランドツーリズム運営等支援事業」受託し、来年度以降のDMO登録を目指す本組織に対するアドバイザリー業務を行っています。本組織は、昨年度井原市より弊社が受託していた業務を通して2026年4月に設立された組織であり、2年連続で井原市の観光地域経営への取り組みをご支援しています。

今回、地域の観光関連事業者や住民に向け、法人設立のご報告と今後取り組んでいく事柄についてのワークショップを行うため、「井原ブランドツーリズム事業報告会及びワークショップ」を実施しました。当日はまず弊社が昨年度行った業務の内容を振り返り、その後吉田事務局長より参加者の皆様へ法人設立の報告と今年度事業の内容、本組織が設定するターゲットについての説明がなされました。ワークショップでは、グループに分かれて井原の魅力を活かした体験コンテンツのアイデアを出し合い、参加者の皆様からもご自身の事業と絡めた様々な案が発表されました。今回集約されたアイデアは今後開催予定の「井原市体験博覧会(※)」などにも活かされる予定です。

今後もワークショップを今年度中に複数回開催する予定としており、井原市の観光地域経営の実現に向けた動きが加速すると共に今後の取り組みへの期待や機運を高める機会となりました。

【概要】

日 時：2026年8月20日（木）16:00～18:00
場 所：井原市地場産業振興センター
参加者：市内外から約40名が参加

▲当日の様子

特設サイト

※井原市体験博覧会「いばらのたからばこ」は、井原市内の事業者・団体・地域住民が、自分たちの仕事・技術・文化・暮らし・自然などを“体験プログラム”として提供し、井原市全体を博覧会場に見立てて実施する期間限定の体験型イベントです。

<実施期間>
2026年12月5日（土）～
2027年1月31日（日）

せとうちアカデミー報告

第140回：持続可能な観光地・小豆島の実践
～官民一体で育むサステナブルな島づくり～

今回のせとうちアカデミーでは、「せとうちDMOアワード」サステナブル部門にて、最優秀事業者に選ばれた一般社団法人小豆島観光協会様を講師にお迎えしました。

小豆島観光協会様は、「持続可能な観光の推進」をテーマに、小豆島町・土庄町をはじめとする官民が一体となり、地域の魅力と共感を育む観光地域づくりに取り組まれています。

島民を中心としたガイドの育成による地域ならではの体験ツアーの造成や、車椅子でも利用できるユニバーサルビーチの整備、さらには中山千枚田の棚田保全を通じた文化や伝統の継承など、地域の宝物に新たな価値を生み出す取組を展開されています。

また、せとうちDMOアワードでは、第5回「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」の受賞をはじめ、持続可能な観光地TOP100選など国内外における数々の受賞実績を有し、サステナブル観光のモデル地域として認知されています。

本講演では、持続可能な観光地づくりを進めるに至った背景や、官民連携による推進体制、地域資源を守りながら観光価値を高める取組、そして今後の展望について詳しくお話しいただきました。

◆講師：一般社団法人小豆島観光協会　事務局長　塩出慎吾氏
◆日時：2026年7月30日(木) 14:00～15:00